

第2回新しい学校づくり阿南市地域協議会 会議録

委員

新野高校の海外の修学旅行はいつから実施しているのですか。

委員

平成14年度から実施しています。3泊4日で広東省深圳の惠州農業学校と交流しました。14年度は交流の提携を結ぶなどの作業があり、なかなか交流の中身を深めることが出来ませんでした。15年度はパンフレットにも記載しておりますように、お互いの学習内容の交流会や竹太鼓の披露を行いました。また、香港を中心とした観光旅行も行っております。

委員

新しい学校をどうしたいかという目標は、はっきりしています。生徒の個性や能力などの多様性を理解して育てるといったことになると思います。その実現のためにどのような策を取るかが問題です。家庭の教育がきちんとしていれば、子どもの教育はきちんとできます。そのために親の教育をどうするかが大切になってきます。例えば保護者会について考えれば、子ども達をよくするためにどうすればいいのかを深く積み重ねて話し合いをすることができているのでしょうか。学校教育には、保護者の理解と協力の必要性を再認識して、両者がもっと真剣に考え合える機会が大切です。

委員

地域が求めている学校像は何かということが関わってくると思います。前回、皆さんにご意見をいただきましたが、少し漠然としていたように思います。例えば21世紀の社会に対応する学校とありますが、21世紀の社会がどうなっていくのかという共通認識がないと議論が難しいと思います。将来の社会のニーズは何かを考えていかなければなりません。

委員

親の立場としては、子どもの自主性を重んじて、のびのびと意欲的に希望を持って勉強できるような学校にしてほしいと思います。もちろん保護者の責任もありますが、学校も指導をきっちりとしていただきたいと思います。

ただ、高校の場合、家庭との連携があまりないようにも思います。

委員

保護者が安心して子どもをあずけられる学校が大切です。家庭と学校の連携が大切になってきます。現在の高校では学校と保護者が直接話をする機会は学期末か進路を決めるときだけではないでしょうか。

委員

体験入学や入学時のオリエンテーションなどを通じて学校の目標を説明していますが、保護者になかなか理解してもらえないのが現状です。学年の全体集会や保護者会、学校新聞で説明してもなかなか伝わりません。HPでの広報も、全員がインターネットを使えるわけではありませんので、保護者との連携は難しい面があります。PTAや同窓会とも連携する必要があります。一つの学校のPTAだけでなく地域の学校と連携を取り、学校の枠を越えて協力していかなければなりません。ただ、地域の保護者の声をくみ上げるだけが地域連携でないと思います。

委員

保護者もどんどん学校へ入っていき、共に子ども達を育てていくことが必要です。最近では、学校で色々な事件があり、関係者以外は入れなくなっており、問題だと思っています。

委員

子どもが小さい頃はよく学校に行きました。しかし、大きくなってくると親が来るのを嫌がるようになります。

自分の将来をきちんと考えられる子どもになるように、あらゆる機会を大切にして親も子どももどうあるべきかを考える必要があると思います。

委員

幼稚園、小学校の時は、参観日などで学校に行くと子どもも喜びますが、中学校以上になると子どもが来るなど言います。参観日も親に言わなくなってしまいます。

委員

逆に言えば、それは子どもの自主性が芽生えている一面でもあります。

大学の入学式に親がついていくような時代です。親がどこまで子どもに関わっていくかは課題です。ある程度、学校には来てくれなくてもいいと言うのは大人になっている証拠です。

しかし、何かあった場合には出来るだけ門戸を開いて、いつでも来てもらえるようにすべきです。

委員

阿南工業と新野高校をあわせた学校をつくるのか、それとも全く新しい学校をつくるのかについて、どうお考えですか。総合高校であるのか、実務者を養成する学校であるのかによって学校像も変わってきます。阿南地域には進学校と実務者を育てる学校と2つの柱を残そうと考えているのかによると思います。実務者を育てるということを考えると、生徒像は明らかになってくると思います。もう少し具体的に協議する必要があると思います。

事務局

再編方針に各地域の再編の姿を記載しております。阿南市地域については、普通科教育は富岡西高校、富岡東高校で、職業教育については阿南工業と新野高校の教育を基本に学科再編を行い、地元から要望のある新学科の設置を含めて、特色ある学校づくりを進めることとしております。ですから、基本は両校の教育を基本にし、それを土台にして新しい学校を作っていくこととなります。

委員の皆さんから色々なご意見をいただき、それを積み重ねて新しい学校をつくっていきたいと考えております。最終的には新しい学校の設置学科まで考えたいと思いますが、今は、皆さんからたくさんのご意見をいただきたいと思います。

委員

阿南工業と新野というそれぞれが独自性を持った高校を土台にして学校をつくるということですが、高校は専門学校とは違います。あくまで、高等学校であるという姿勢、基本は忘れてはならないと思います。実務者の教育であったとしても、多感な時期の子どもの人間教育を忘れてはならないと思います。

委員

やはり保護者が来やすい学校が一番だと思います。

委員

最近、コミュニティスクールという言葉をよく聞きます。地域が一緒になって学校をつくっていくということはそれに近いように思います。伊座利小学校が頑張っている様子をテレビで見ました。伊座利小学校は生徒数が少ない上、地域密着型の環境にあります。それと高校を同じように論じることは難しい面もありますが、開かれて常に地域と交流できる学校は大事であると思います。

委員

P T Aも引き受け手がなく、順番にやっているような現状です。できるだけ学校に近づきたくない保護者も多くいます。保護者の考え方にも問題はありますが、学校も保護者を近づきにくくしているように思います。保護者がよく来てくれるような学校にすべきです。学科については子どもそして保護者も興味を持てる学科がいいと思います。

委員

地域協議会もスタートしたばかりですので、イメージが分かりにくい部分があります。しかし、基本的には、新野と阿南工業をあわせて、従来なかった学科等をつくりあげていくこととなります。例えば生き方を考えるような学科はどうでしょうか。大学にあって、高校にない学科としては哲学科があります。哲学科というと難しいように思うかも知れませんが、生き方を考えるような学科です。地球温暖化などについても自然の関わり方といった面では生き方となります。それを話し合っていくことが大切です。高度成長期の中では物の豊かさが重要視され、心の豊かさを置き忘れていきます。そういったことも柔らかく勉強できるような科はどうでしょうか。

委員

つくっていく高校は中学生が入学したいと思うような高校です。

中学生が自分の個性や能力、希望を踏まえて主体的に高校を選んでいるかどうかについては、制度の部分も含めて疑問があります。それぞれが素晴らしい学校運営をしていても、中学生がそれを認識して判断しているのか心配しています。

高校時代は人間にとって、人生設計や生活設計のスタートラインです。そういう意味では普通科であろうと職業科であろうと、人生をいかに生きるかを勉強できることが重要です。自分の将来、進路をきちんと指導してくれ、自分で決めることができる高校でなければならないと思います。

委員

阿南地域の子ども達の成長のために高校はあります。基本方針にあるようにきちんとした普通科をつくること、そしてかつての職業教育を総合した複合型の高校をつくることです。普通科にも課題があります。21世紀を見通し、多様化、個性化に対応した普通科教育を行う必要があります。また、人や地球環境に優しい視点からの取り組みも必要です。多様化、個性化にしても生徒が主体的に選択できるような特色が必要です。

平成17年度の地域別説明会において、出席者から阿南地域でも633制とはちがう、中高一貫の流れがあるのかというご意見がありました。県は、平成18年度から川島高校での中高一貫教育が始まるので、その状況をみながら考えていくとの回答をしています。そういったことで、学校は、教職員を中心として、方法、カリキュラムで特色を出していかなければなりません。教育行政のバックアップを得ながら、阿南の子どもが特色のある多様な教育を受けられるようにしていくことが重要です。阿南工業と新野が一緒になって、より多様化した複合型の学校をつくるという課題と同じように、阿南市内の普通科教育をどうするかも課題であると思います。

阿南市の高校教育をどうするかという地域協議会の取組みの中で、複合型の学校を作る課題と同じように普通科の課題も協議してもいいのではないかと思います。

県教育委員会

この地域協議会では阿南工業と新野高校の2校の再編を主として協議していただくことになっておりますが、協議していく中で、2校以外のことも課題が出てくる可能性があります。問題点としてご提案いただき、協議が進んできたときに、他のものとあわせて協議していただければと思います。

委員

前回もご意見をいただきましたように阿南の子どもが教育を受けるときに不利益にならないような教育をしていかなければならないと思います。

委員

非常に難しく時間のかかる問題だと感じています。将来設計や人生設計をきちんと考え

られるような学校が必要だと思います。大学を出ても就職せずフリーターになる人も多く、大学卒業時点で人生の目的や目標が決まっていない人もたくさんいます。小学校、中学校の時、また、高校受験の時に自分の将来を決めている子はほんのひとにぎりですので、高校に入ったら自分の将来をきちんと決められるような学校、教育システムにしていきたいと思います。そうすれば、目標も決めず入ってきたとしてもその中で自分の将来を描けるようになると思います。

委員

ここで考えなければならないのは、その内容よりもどんな学科・制度・仕組みを持った学校、すなわち入れ物をつくるのかということです。個性や主体性を持つ生徒を育てることも大切ですが、協議会の議論で必要なことは、4校を3校にするという形の中でどんな入れ物を作るかということ、また具体的な結論を出すことです。

委員

入れ物というのは資料にありますように育てたい生徒像でもあると思います。阿南地区の人たちがどんな人を育てていこうとしているかによります。それによって学校はどうあったらよいのかを考える必要があります。次の世代を担っていく人たちをどう育てるのか、どんな大人にしたいのかが、育てたい生徒像や学校像、教育内容に繋がっていくと思います。これからの21世紀の少子高齢化の中で生きていく力というのは、阿南工業の説明にもありましたように社会人としての常識、学力、倫理観です。それを身につけた人材を育成する教育になると思います。高等学校で職業人としてのベースをつくるということで、信条的な考え方と、行動をとおして自分のアイデアを表現していくことができる人材を育成する必要があります。これからの社会は新たな課題がたくさんあります。創造力という漠然としたものでなく、それが具体的に形、行動となるような人を育成する必要があります。また、働く意欲を持つことも大切です。このことは、新しい学校の中でも忘れてならないと思います。

委員

阿南市で生まれて育っている生徒は、阿南で就職してほしいと思っています。中学校の説明会で保護者の方に「将来、子供さんにどうしてほしいですか」と聞きますと、「子どもは阿南市内で就職してほしい」とおっしゃいます。しかし、結局は普通科に進学します。普通科に進学し、大学に入学するときには、ほとんどの生徒が都会に進学しています。

そうではなく、地元に残る生徒を育てたいと思っています。そのためには、職業観を育成し、地元の企業に就職させたいと考えています。

委員

先程、入れ物のお話をされていましたが、どんなことをイメージされているのか、もう少し具体的にお話しいただけますか。

委員

地域にはどんなニーズがあるのかを考える必要があります。しかし、ニーズとリクエストを取り違えてはなりません。また、ニーズの背景には、これからの社会、徳島、県南がどうなるのかを考える必要があります。

例えば、福祉関係が重視されてくれば、それは工業科でも農業科でも学ばませんので、福祉科を創設することになります。また21世紀のキーワードとして地球環境があげられます。環境保全を学べる科も考えられます。ただ工業科と農業科を一緒にして、これが複合型の職業学校というのではおかしいと思います。

その入れ物の中で、みなさんがおっしゃっているような教育が必要です。さらに高校教育は地域の支援が必要です。同窓会、地域の保護者の力をどのようにして結集させるかが課題です。そのために学校の状況を地域の人に知ってもらわなければなりません。広報誌を配付するなど、高校も地道な努力をすべきです。

委員

21世紀はカオスの社会にならないかと危惧しています。

発達段階からいって小学生は指示待ち型が多く、主体的な判断力は十分ではありません。判断するにしても自分に都合のいい判断が多いように思います。困難に直面すれば楽な方を選択する傾向があります。これはニートなどにも影響しているように思います。国民として必要とされる社会的資質は、専門的な学習によるものだけでなく、社会性であると思います。ところで、県内での就職率がどの程度なのかはわかりませんが、地域の生徒が望むだけの就職が可能なのでしょうか。県外でなければ就職できないような状況ではないのでしょうか。

また、魅力のある科というのは難しいですが、先程のご意見にもありましたように、生き方を考える科もおもしろいと思います。

委員

普通科教育は富岡西、富岡東が担い、職業教育は阿南工業と新野高校が担うことになります。職業教育に関しては、生徒の進路希望も考えながら、これからの時代のニーズにあったような教育をしていくことになります。生徒や保護者、地域から支援される3要件は、「人格形成」「出口」「生涯学習支援」です。これは総合学科のみならず、全ての高校教育に必要です。総合学科では自分で時間割を考え、一生懸命に勉強しますが、このことは自分の人生の在り方や生き方を考えることになり、自己実現につながっていきます。総合学科の生徒は就職と進学が半々ですので、我々も普通科教育を担っていかなければなりません。新しい学校の土台づくりには総合学科の教育のメリットがいかせると思います。

また、キャリア教育は自己の在り方を考える教育ですので、職業教育だけを指すものではなく、進学校の普通科でも必要になると考えています。

阿南地域が活性化する職業教育が必要になってきます。

委員

私たちが目指す教育は新野の総合学科がお手本になるように思います。自ら目標を定めて、生きる力を養っていくことが大切です。阿南工業も類型の中で自分の生き方を模索し

ていますので、これも大きな柱になります。戦後は、ほとんどの学校が総合学校でしたし、日本だけでなく、イギリスでもひとつの学校に普通科と職業科があるような多様な学校でした。

今の阿南工業も新野も学校の規模が小さいために生徒が多様な選択をすることが難しくなっています。例えば哲学科や倫理学科のような生きることを学ぶ学科を置くにしても、生徒数が少なければ、講座の開設はできないように思います。生徒数が多く、多様な選択ができる学校を作る必要があると思います。

委員

入れ物をどうするか、その中身をどうするかについて、県内の将来展望について統一した認識を持つ必要があります。そして、地域のニーズを見いだしていかないと、中身の議論はできません。その分析を出してほしいと思います。

委員

確かに背景が分からないと目標が定めにくいと思います。次の協議会では特徴的な教育内容を協議することになりますが、それまでの間に阿南地域や県内の人口や生徒数、企業の要求する人材などについてアンケートなどで調べておくのはどうでしょうか。

事務局

対象校の就職担当者などと相談しながら、次回に資料を提供させていただき、協議会に繋げていただきたいと思います。